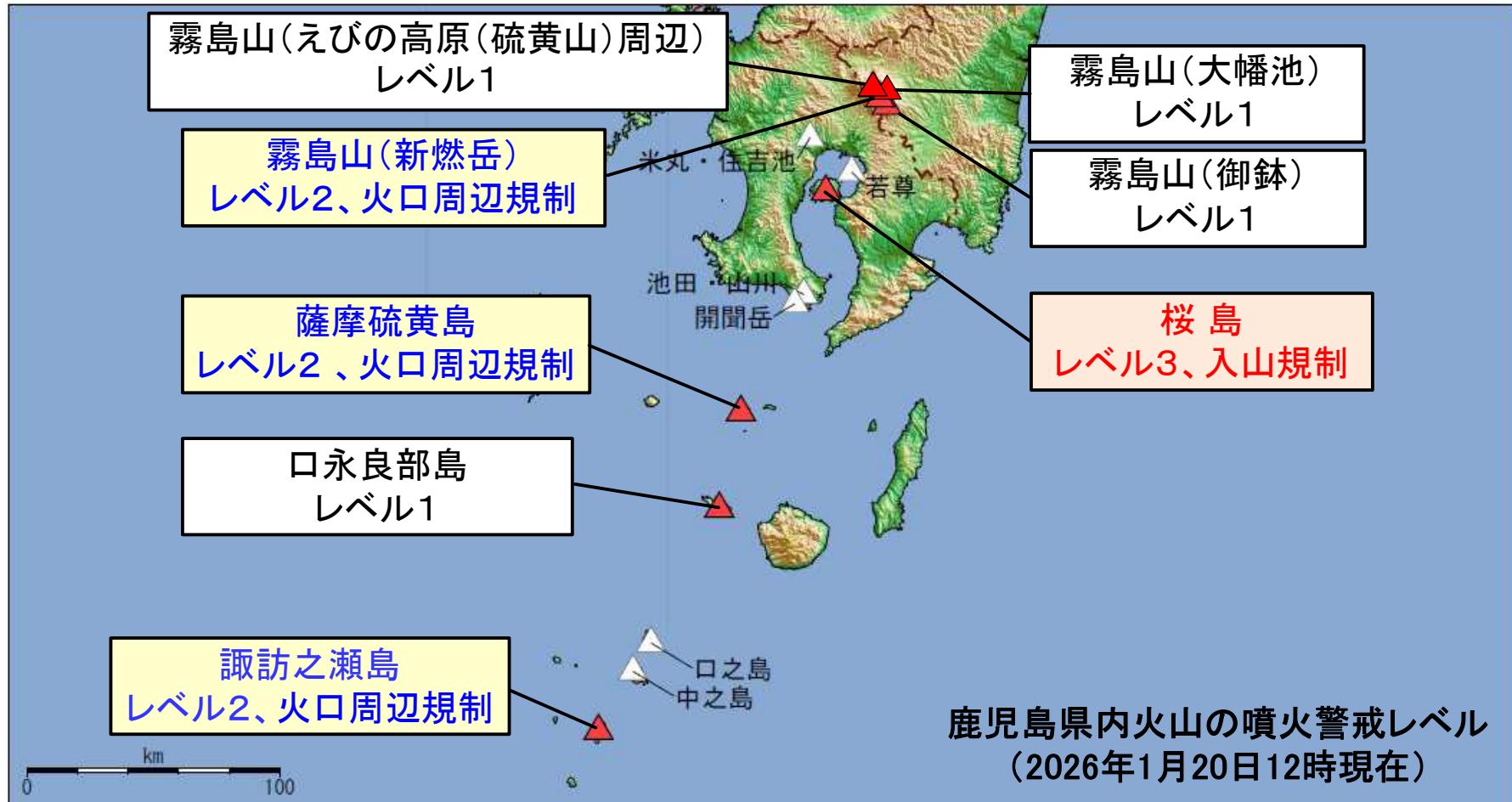


2026年1月20日(火) 月例気象説明会

鹿児島県の火山活動概況

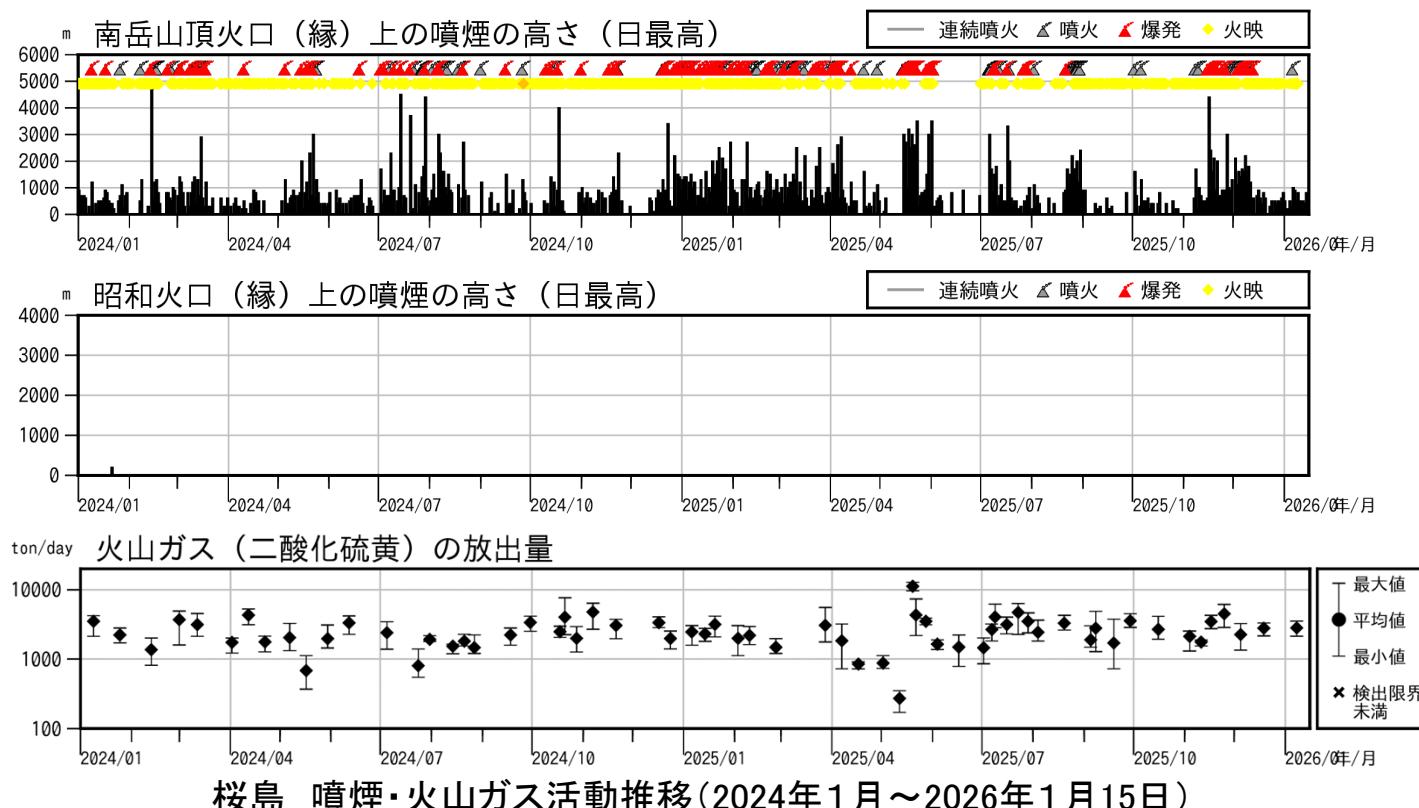
2025年12月～2026年1月15日



鹿児島地方気象台

12月以降の主な状況

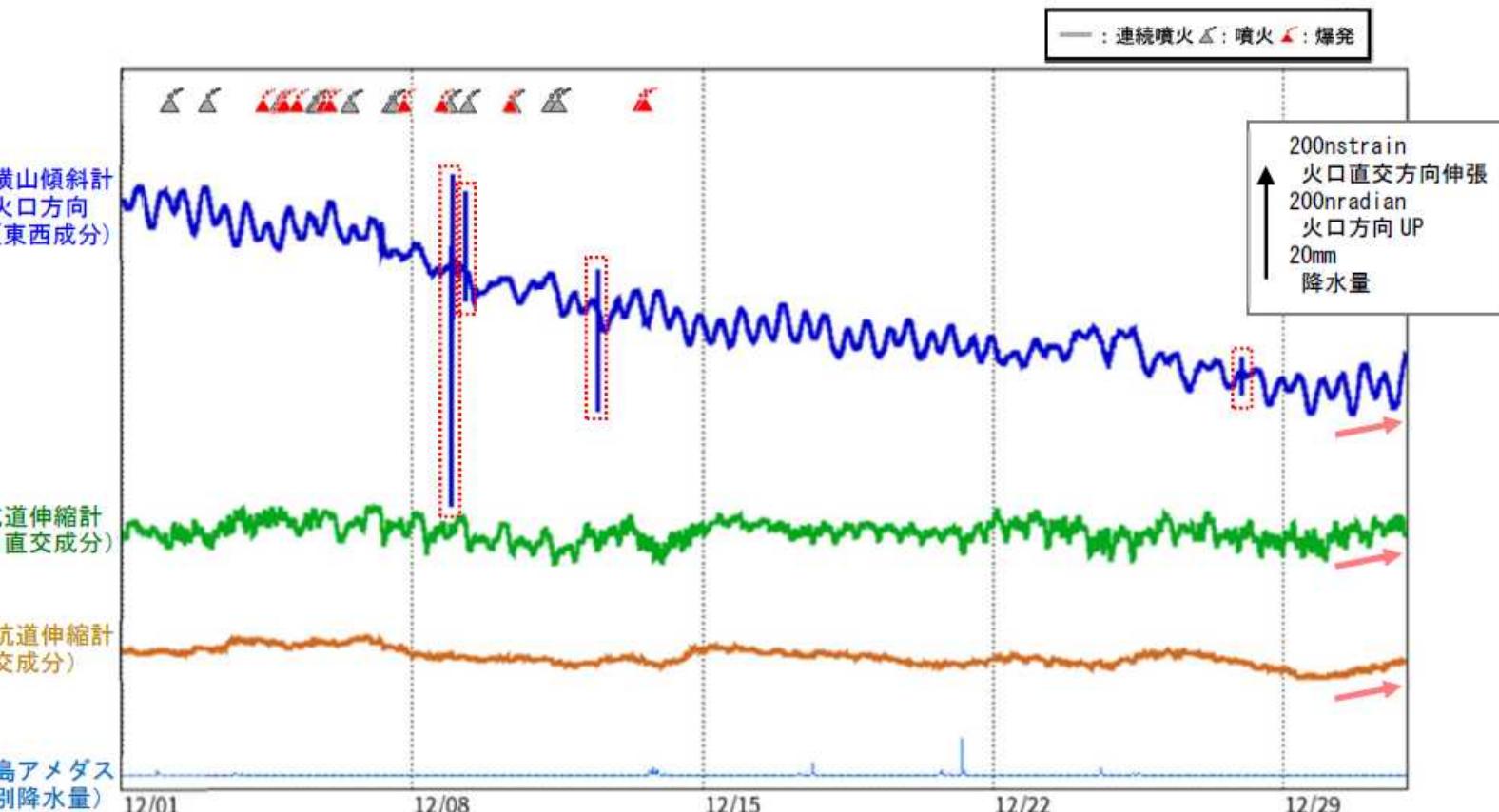
活動評価	姶良カルデラ(鹿児島湾奥部)の地下深部にマグマが長期にわたり蓄積した状態であり、火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は概ね多い状態であることから、今後も噴火活動が継続すると考えられる
噴火活動	<p>[南岳山頂火口]</p> <p>噴火回数 1月(15日まで):1回(うち爆発:0回) 12月:噴火28回(うち爆発:12回)</p> <p>12月8日22時27分の噴火:噴煙の高さは火口縁上2200m</p> <p>[昭和火口](ごく小規模含め) 噴火は発生せず</p>
火山ガス	二酸化硫黄の放出量は1日あたり平均2300~2800トンと多い状態



12月以降の主な状況

傾斜・伸縮

桜島島内の傾斜計及び伸縮計では、12月30日から31日にかけて山体膨張（隆起）が観測された。



傾斜計及び伸縮計による地殻変動の状況 (2025年12月1日～12月31日)

※各観測点のデータは潮汐補正を行っている。

※図の作成には、京都大学のハルタ山坑道と高免坑道の観測データを使用している。

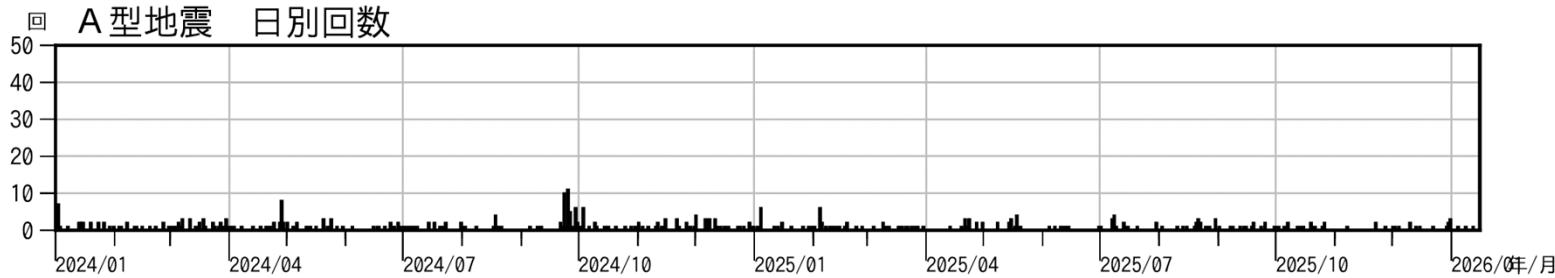
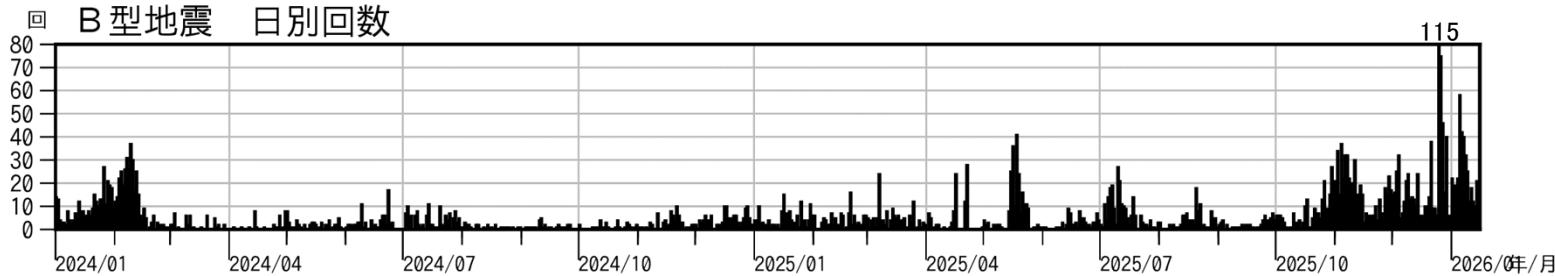
※赤破線内の変化は遠地地震の影響によるものと考えられる。

桜島 噴火警戒レベル3(入山規制)

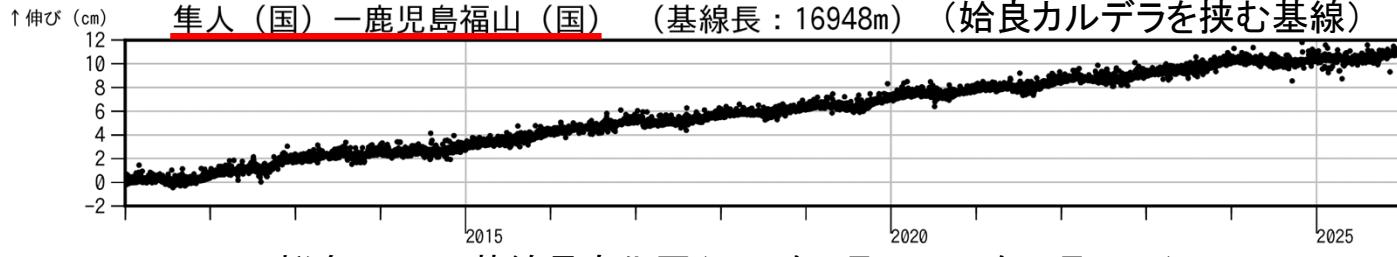
警戒範囲: 火口から概ね2km
(2022年7月27日20時00分発表)

12月以降の主な状況

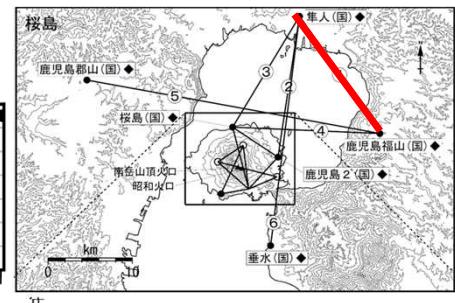
震動現象	火山性地震は12月25日から27日にかけて一時的にやや多い状態となったが、その他は概ね少ない状態で経過
GNSS	長期にわたり始良カルデラの地下深部の膨張を示す緩やかな伸びがみられる



桜島 地震活動推移(2024年1月～2026年1月15日)

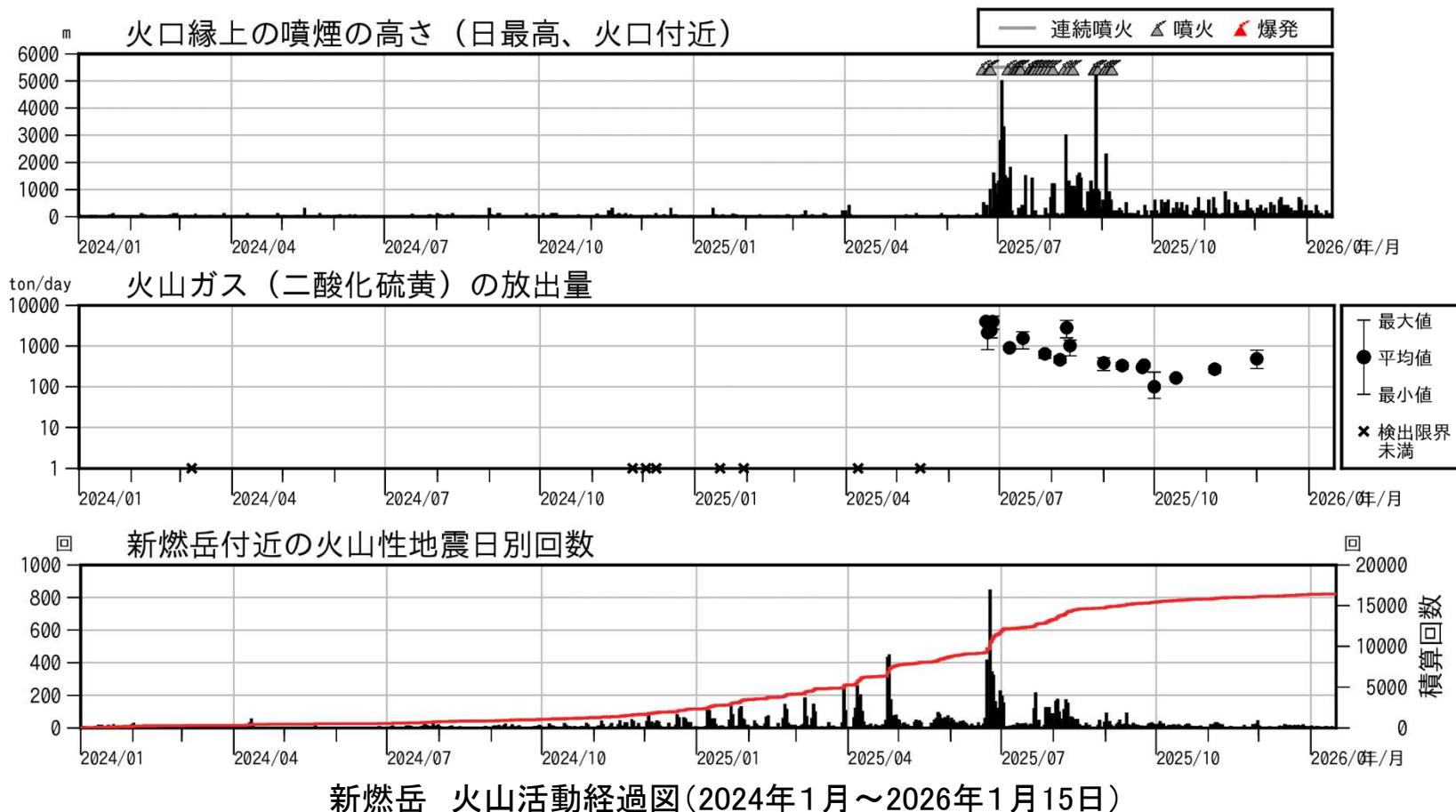


桜島 GNSS基線長変化図(2011年1月～2026年1月15日)



12月以降の主な状況

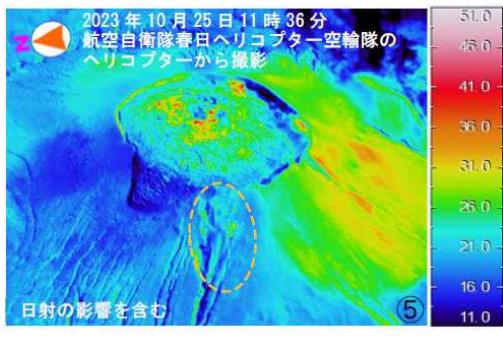
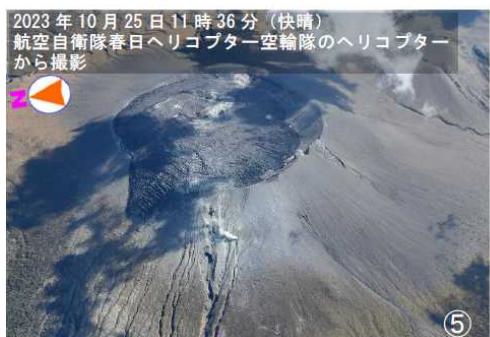
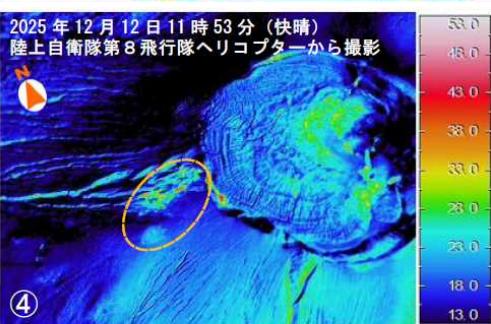
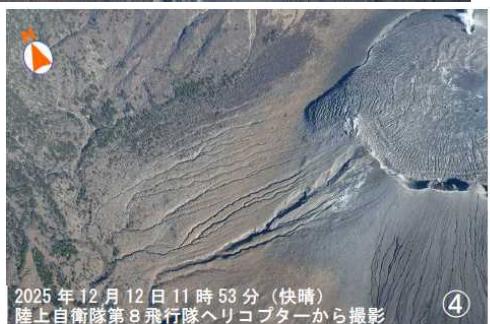
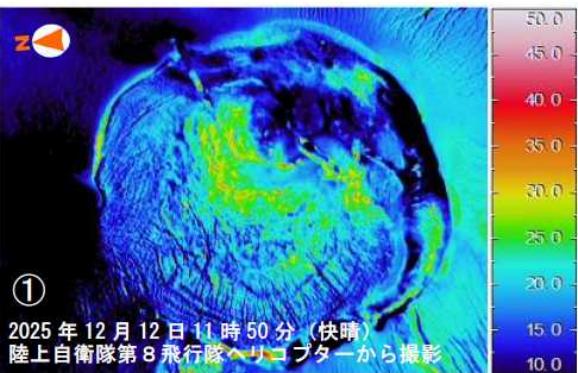
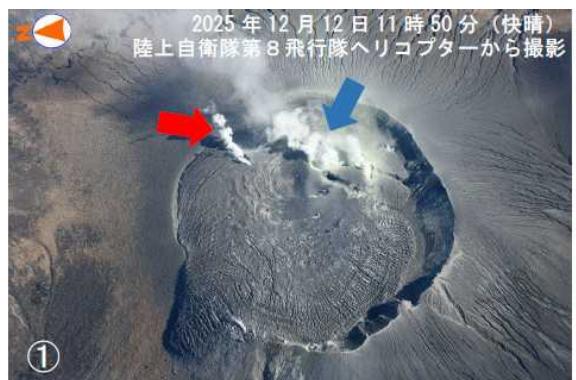
活動評価	火口直下を震源とする火山性地震は概ね多い状態、火口から概ね2kmの範囲では大きな噴石などに警戒
噴火活動	9月8日以降、噴火は観測されていない
火山ガス	火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は1日あたり平均500トンで経過。
震動現象	2024年10月下旬頃から火口直下を震源とする火山性地震が増減を繰り返している。



12月以降の主な状況

現地調査

2025年6月下旬の噴火が確認された火口内北東側（赤矢印）では弱い白色噴煙を確認、7月上旬の噴火が確認された火口内南東側（青矢印）では白色噴煙が数百m程度上がっていることを確認。西側斜面の割れ目付近（破線内）では地熱域が拡大していることを確認した。



新燃岳火口内の状況

(2025年12月12日 陸上自衛隊第8飛行隊ヘリコプターから撮影)

新燃岳西側斜面の状況

(2025年12月12日 陸上自衛隊第8飛行隊ヘリコプターから撮影)

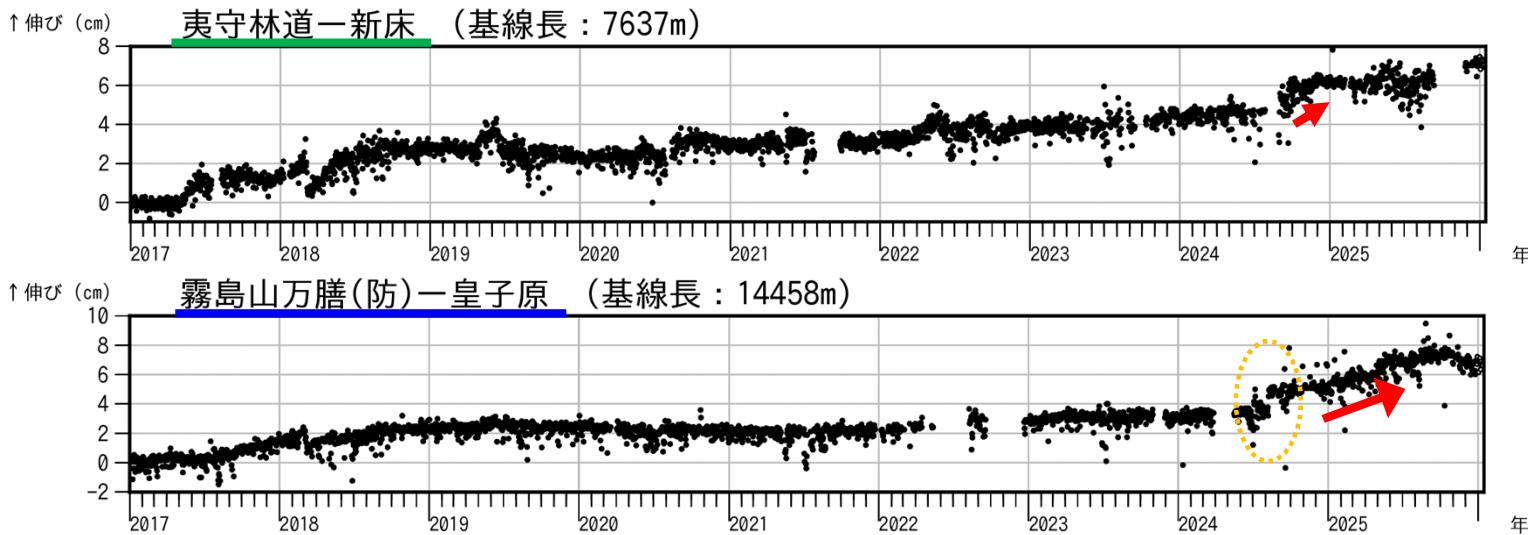
新燃岳西側斜面の状況

(2023年10月25日 航空自衛隊春日ヘリコプター空輸隊のヘリコプターから撮影)

12月以降の主な状況

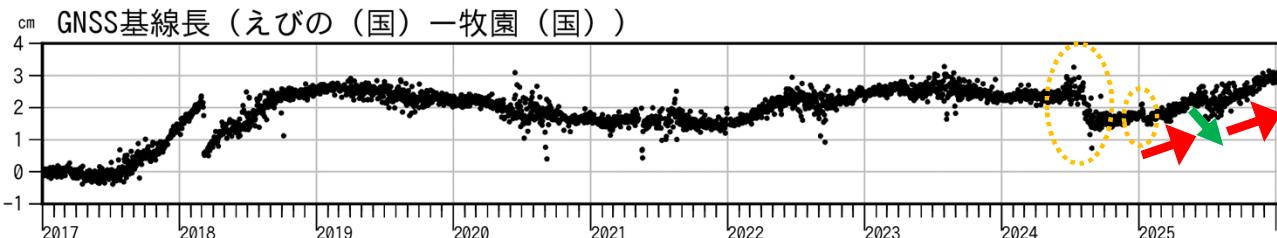
GNSS

霧島山を挟む一部の基線で、2025年3月頃から霧島山深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められている。同基線では2025年7月上旬に噴火活動に対応すると考えられるわずかな縮みがみられた（緑矢印）。新燃岳付近の地下における膨張を示すと考えられる基線の伸びは、2025年7月以降は認められない。



新燃岳付近 GNSS 連続観測による基線長変化(2017年1月～2026年1月15日)

※橙色の破線は2024年8月8日の日向灘の地震による変動を示す



霧島山 GNSS 連続観測による基線長変化(2017年1月～2026年1月15日)

※橙色の破線は2024年8月8日、2025年1月13日の日向灘の地震による変動を示す

